

# 奈良県提出資料



平成25年5月28日

I グローバル化とは何かを考える

II 日本型システムの未来を3つの分野で考える

II-1 日本型雇用システムの行方

II-2 日本型社会保障の充実

II-3 日本型経済発展の形態

# I グローバル化とは何かを考える

われわれの時代をおおっているのは、



「少子高齢化」、「晩婚化」、「就職難」、  
「離婚率の増加」、「財政危機」、「非正規雇用の増加」、  
「デフレ」、「円高」、「決められない政治」……



これらのことは、時差はあれ、概ね現代の世界各国に共通して  
見られる現象 → 相互に何か関係があるのか？

また、何か共通する原因はあるのか？

→ 共通する原因があれば、共通する解決策は  
あるのか？



今の時代の特徴は、自由主義、民主主義、人権主義、資本主義、そして「グローバル化」



「グローバル化」の特徴は、「人、もの、金、情報が国境を越えて往来すること」と言われている。

しかも、世界中が資本主義体制になっている。(資本主義のグローバル化)



「グローバル化」の本質は何か？

われわれ日本人は、グローバルな世界で、うまく生き残っていけるのだろうか？ (グローバル化時代の不安)

今日の「グローバル化」の本質は？



キリスト教起源の普遍化志向のシステム(自由主義、民主主義、科学的思考、人権主義、資本主義等)が地球規模で拡大していること



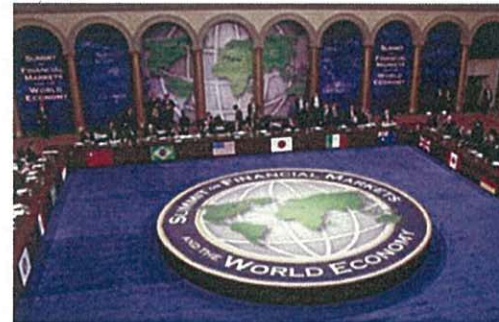
われわれ日本人は、このような「グローバル化世界」にどのように生き残っていけばよいのか？



- キリスト教起源の普遍化志向のシステムである資本主義（民主主義も）がグローバル化する中で、どこか押しつけがましいところがあるのではないか。（日本人として居心地が悪い）
- われわれ日本人は、このようなマルチの仕組みを理解するのが弱く、利活用するノウハウにあまり進歩がない。  
（アーキテクチャの機能を理解できず、あるいは、むやみに信頼しすぎる） → 「例外措置のみを叫ぶ日本代表团」



どう対処すべきか？





## 国際社会への対処の基本

- キリスト教文明の構造をよく理解する。
- 国際的枠組みに影響を与える度合いの大きいアメリカ、中国の経済政策の動向を注視、分析、理解をする。
- 日本の立ち位置を探求し、確立する。



## 対処の仕方に3種類

- a. ローカル・ルールを例外として認めてもらう。
- b. 我こそが普遍だと言う。
- c. 事実上、日本にだけは適用されないようにする。



これからは、bタイプ(我こそ普遍)を主張すべきではないか？

「グローバル化時代における日本の生き方」をどのように考えればよいのか？



大事なポイントは、

- ①世界の動向の本質を見抜く。
- ②歴史に学ぶ。(彰往考来)
- ③われわれ自身のアイデンティティを確認する。



日本型システムを再認識し、日本らしく生き抜く。



やまとちから